

付表- 4. 2. 2. 7(6) 重要な地形・地質の記録の整理結果(No. 832)

写真



写真 (No.832⑩)
南南東に面した露頭
の中部。
大規模な非対称性
褶曲が観察される。



写真 (No.832⑪)
同上。



写真 (No.832⑫)
同上。

写真



写真 (No.832⑬)
南南東に面した露頭
の向かって左側。
大規模な非対称性
褶曲が観察される。



写真 (No.832⑭)
同上。



写真 (No.832⑮)
同上。

写真



写真 (No.832⑯)
南南東に面した大規模褶曲の露頭の南側に位置する北東向きの高さ3~4mの露頭。
赤白ポール付近とその右側約2mの位置に断層がみられる。

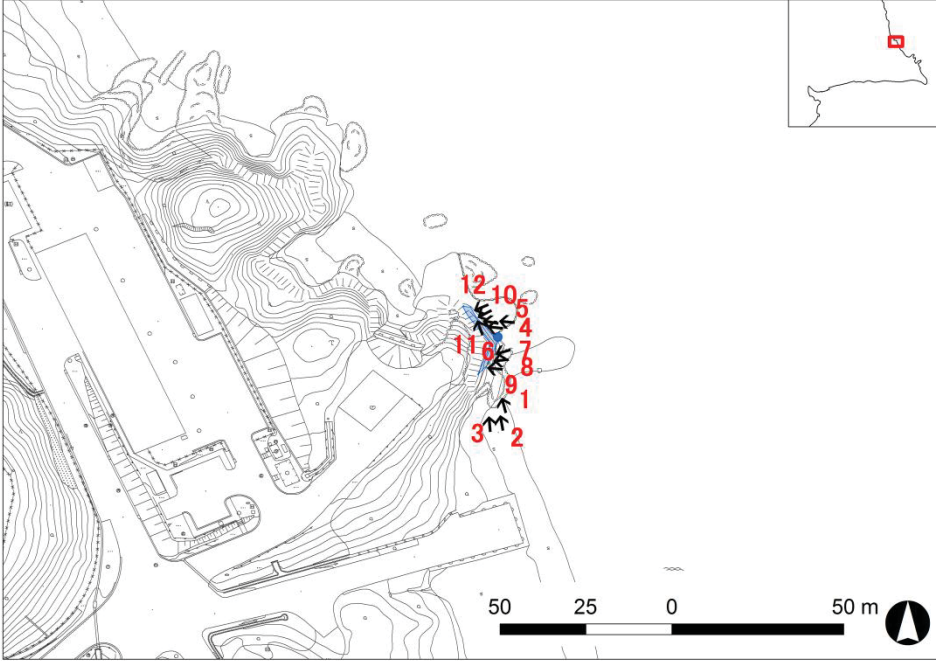


写真 (No.832⑰)
同上。



写真 (No.832⑱)
同上。写真左上から右下にかけて逆断層が観察される。

付表- 4.2.2.8(1) 重要な地形・地質の記録の整理結果 (No. 84)

No.	84
種類	嘉陽層の露頭(互層)
調査年月日	平成 26(西暦 2014)年 6 月 30 日
概要	辺野古崎の北西約 1,000m、辺野古北方海岸の海蝕崖に嘉陽層の互層の露頭がみられる。海側から露頭に向かって左側に中規模の褶曲が観察される。海岸線に達する基地内の道路端から北方約 50m の岬の先端に位置し、付近の水際には旧海軍の船舶係留設備の人工構造物の遺構が存在する。
位置	 <div data-bbox="384 1328 821 1496" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【No.84 観測点座標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緯度:26° 31' 41.6534" ・経度:128° 02' 50.7793" ・標高(EL):-0.168m ・標高(DL):0.995m </div>
形状・構造	幅約 30m、高さ約 15m に及ぶ海蝕崖の露頭で、嘉陽層の互層が直立しているほか、露頭の向かって左側には中規模の複雑な褶曲構造がみられる。
規模	幅約 30m、高さ約 15m に及ぶ露頭。
その他 (保存状態)	露頭の保存状態は比較的良好であるが、向かって左側の露頭下部には直径 50cm~1m 大の岩塊や礫が堆積している。

代表地点の周辺4方向からの写真

【No.84 観測点座標】

- ・緯度:26° 31' 41.6534"
- ・経度:128° 02' 50.7793"
- ・標高(EL):-0.168m
- ・標高(DL):0.995m



業務名	シュワブ(H25)陸域生物等調査検討
項目	地形改変区域における 重要な地形・地質記録 地形・地質の記録
調査地点	代替施設本体 84
期日	平成26年6月30日
受注者	(株)ブレック研究所

調査地点:No.84(嘉陽層の露頭(互層))

撮影日時:2014.6.30 13:14



位置情報:緯度 26° 31' 41.62"
経度 128° 02' 51.18"
撮影方向:西北西



位置情報:緯度 26° 31' 41.46"
経度 128° 02' 51.15"
撮影方向:西北西



位置情報:緯度 26° 31' 41.37"
経度 128° 02' 50.95"
撮影方向:北北西



位置情報:緯度 26° 31' 41.84"
経度 128° 02' 51.02"
撮影方向:北西

付表- 4.2.2.8(3) 重要な地形・地質の記録の整理結果(No. 84)

写真



写真 (No.84①)
海岸線に達する基地内の道路から北方約 50m の岬に嘉陽層の露頭がみられる。



写真 (No.84②)
写真右側に写っているのは旧海軍の船舶係留設備の遺構である。



写真 (No.84③)
露頭が見やすいのは海蝕崖の東側からで、干潮時には歩いていけるが、満潮時には水に浸かるため、濡れないと行けない。ほぼ垂直に立った、嘉陽層の互層が観察できる。

写真



写真 (No.84④)
東側からみた嘉陽層互層の直立した露頭。下部は砂浜に埋もれている。崖の高さは約 15m に及ぶ。崖の下部に波の浸食作用により形成されつつある海蝕洞がみられる。



写真 (No.84⑤)
砂泥の互層で、地層がほぼ直立している。



写真 (No.84⑥)
同上。

写真



写真 (No.84⑦)
露頭の向かって左
手には中規模の褶
曲がみられる。露頭
の前面下部に 50cm
~1m 大の岩塊や巨
礫が堆積している。



写真 (No.84⑧)
同左。



写真 (No.84⑨)
同左。
海底地すべりなどで
形成されたと考えら
れる複雑に捻じ曲
げられたスランプ褶
曲が観察される。

写真



写真 (No.84⑩)
同上。写真の幅は約 3m。比較的狭い範囲で地層が複雑に捻じ曲げられたスランプ褶曲が観察される。



写真 (No.84⑪)
同上。
写真右下の人工構造物は、旧海軍の船舶係留設備と考えられる遺構である。

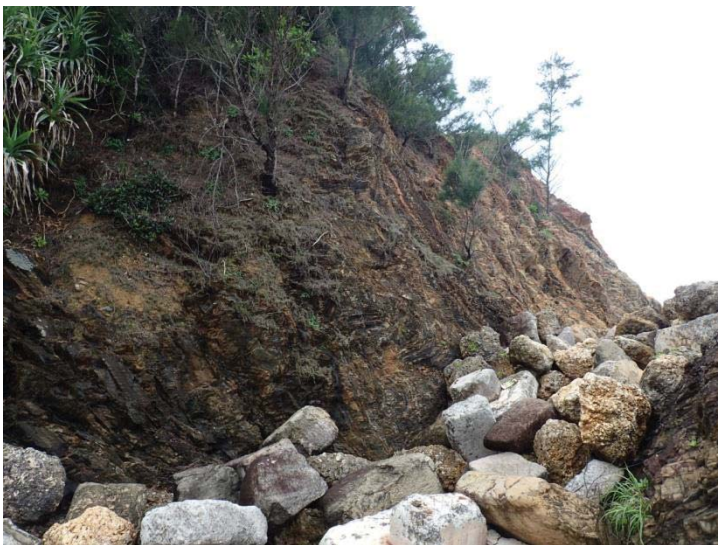
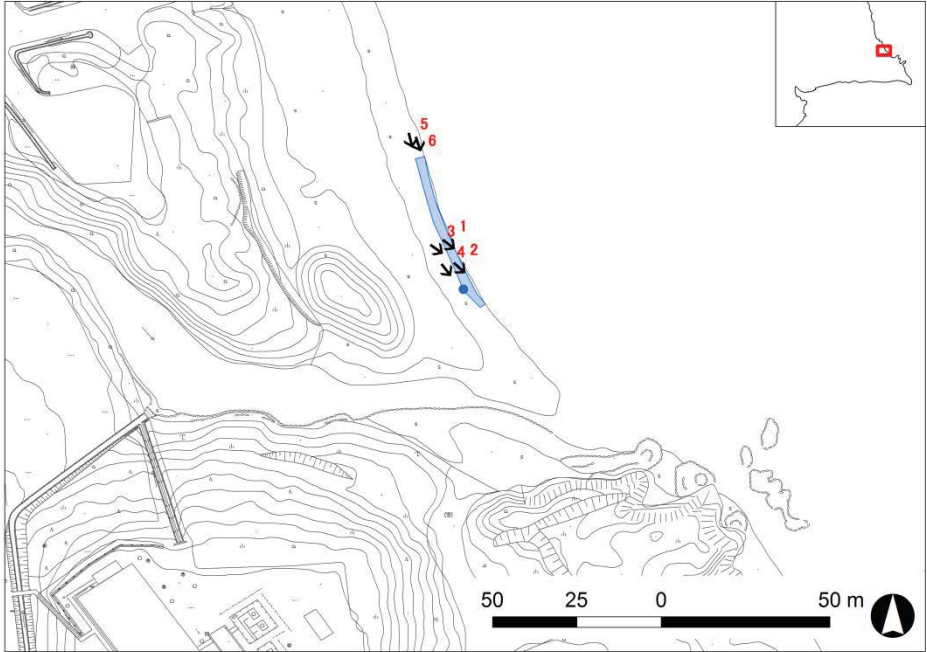


写真 (No.84⑫)
同上。
中規模な褶曲が観察出来る露頭の向かって左側の露頭前面には 50cm～1m 大の岩塊や巨礫が堆積している。

付表- 4.2.2.9(1) 重要な地形・地質の記録の整理結果 (No. 97)

No.	97
種類	カस्प(前浜で波の作用でできる尖頭状の粗粒堆積物)
調査年月日	平成 26(西暦 2014)年 6 月 27 日
概要	<p>辺野古崎の北西約 900m の辺野古崎北方海岸の辺野古美謝川河口の左岸側の砂浜(河口から北北西方向)に海岸線約 50m にわたってカस्पがみられる。</p> <p>平成 20 年調査時に比較すると、地形的特徴が明瞭でなくなっている。</p>
位置	 <div data-bbox="379 1265 815 1435" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【No.97 観測点座標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緯度:26° 31′ 36.5622″ ・経度:128° 02′ 52.3583″ ・標高(EL):0.154m ・標高(DL):1.317m </div>
形状・構造	<p>カस्पは、汀線と平行に形成される一連のリズミカルな砂浜形状で、後浜に向かって広がり、沖合に向かって尖り、海岸線にほぼ直角に、ほぼ等間隔に配列する。海側に突き出した部分を突出部(apex)、陸側に凹んだ部分を湾入部(bay)と呼ぶ。突出部と突出部、湾入部と湾入部の間の間隔(spacing)は数 m～数十 m に渡り、湾入部の深さ(horn)は数 cm～数十 cm ときに 1m を越えるときとされている。</p>
規模	<p>美謝川河口付近の砂浜の海岸線約 50m の範囲でカस्पがみられる。</p>
その他 (保存状態)	<p>カस्प地形は湾岸流等に伴う海岸の浸食・堆積状況により変化しやすい。この海岸では満潮になると陸側の海蝕崖付近まで海水が達し、台風が襲来した際などには波浪や潮流によって汀線付近の底質は大きく攪乱される。このため、平成 20 年調査の当時の写真に比べると、砂浜の状況が大きく変化し、カस्पの地形的特徴が明瞭でなくなっている。</p>

代表地点の周辺 4 方向からの写真

【No.97 観測点座標】

- ・緯度: 26° 31' 36.5622"
- ・経度: 128° 02' 52.3583"
- ・標高(EL): 0.154m
- ・標高(DL): 1.317m



業務名	シュワブ(H25)陸域生物等調査検討
項目	地形変化区域における 重要な地形・地質記録 地形・地質の記録
調査地点	代替施設本体 97
期日	平成 26 年 6 月 27 日
受注者	(株) プレック 研究所

調査地点: No.97(カスプ)

撮影日時: 2014.6.27 16:21



位置情報: 緯度 26° 31' 36.32"
経度 128° 02' 52.45"
撮影方向: 北北西



位置情報: 緯度 26° 31' 36.43"
経度 128° 02' 52.09"
撮影方向: 北東



位置情報: 緯度 26° 31' 36.70"
経度 128° 02' 52.03"
撮影方向: 東



位置情報: 緯度 26° 31' 36.71"
経度 128° 02' 52.14"
撮影方向: 東南東

付表- 4.2.2.9(3) 重要な地形・地質の記録の整理結果(No. 97)

写真



写真 (No.97①)
美謝川河口付近に形成されている砂礫の砂浜。
平成 20 年調査時にはカズブ特有の地形的特徴がはっきりできていたが、今回の調査ではそれが明瞭でなくなっている。

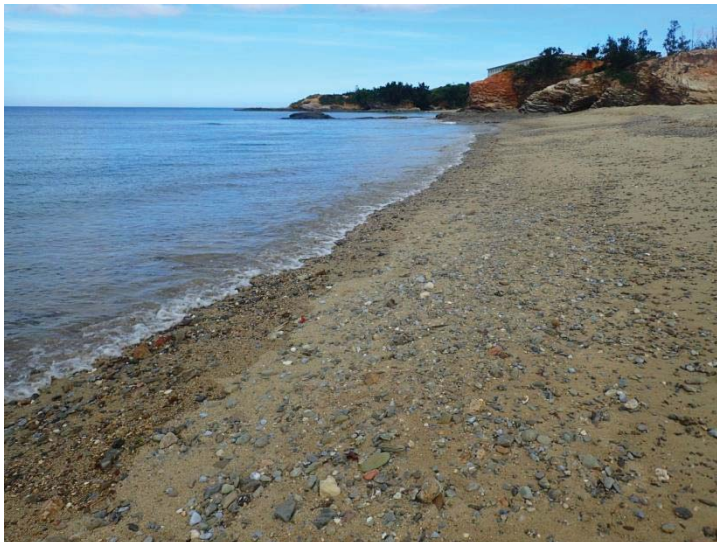


写真 (No.97②)
同上。

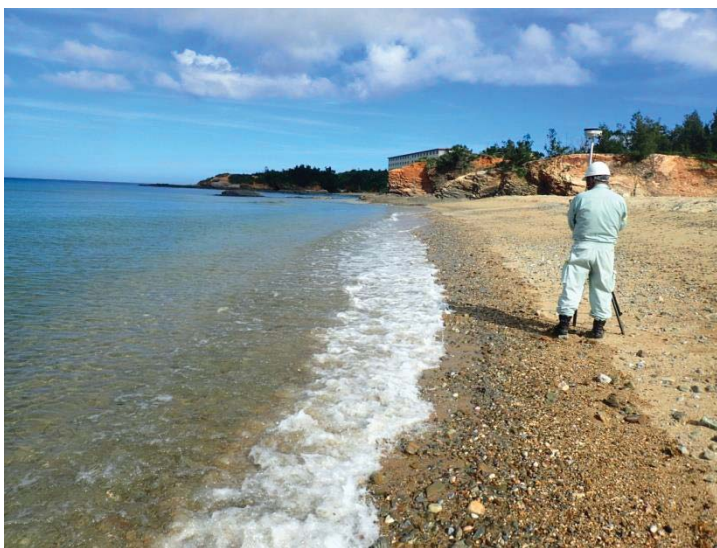


写真 (No.97③)
同上。

写真



写真 (No.97④)
美謝川河口付近の砂礫浜でみられるカスプ。



写真 (No.97⑤)
同上。
写真で礫を主体として黒っぽく見えている部分が突出部、砂を主体として黄褐色に見える部分が湾入部である。下の写真でみるように、平成20年当時に比べるとカスプの地形的特徴が明瞭でなくなっている。



写真 (No.97⑥)
同上。
平成20年調査時に比べると、カスプの地形的特徴が明瞭でなくなっている。



平成20年度調査時